with few definite records of *C. columbarius jankowskii*, has never been known. According to Mr. H. Saito of Hokkaido, all the lakes where swans frequent froze in this particularly severe winter there and swans were observed moving SW.

Some were caught weakened by hunger, while in Aomori, such swans were tamed by artificial feeding.

岩手県における白鳥渡来記録 Records of swans from Iwate 山 本 弘 Hiromu Yamamoto

岩手県内に於けるハクチョウ類の渡来記録を、過去にまで遡って報告する。先ず地域別に整理した一覧表〔第1表〕を掲げ、後に説明を加える。種別を確認し得たものは表中の種の欄に○、ほぼ確実なものには？を附し、全く不明な場合は空白のままにした。成幼の別・羽数等も是れに準じた。

岩手県 (左) 及び宮古附近 (右)

岩手県における「白鳥」渡来記録

渡 来 地	オ オ チ ハ ヨ ク ウ	ハ ク チ ヨ ウ	羽 数		年 月 日	観 察 ・ 報 告	備 考
			成鳥	幼鳥			
1. 久慈玉ノ脇港			少数		1960. 2 中	新聞	死 1
2. 久慈川々口附近		?	少数		1960. 3. 8	新聞	死 1, 衰弱 1
3. 九戸郡野田・宇部			少数		1960. 2 中	新聞	
4. 下閉伊郡岩泉附近	○		4		1960. 2. 10~2. 16	筆者撮影 1	うち死 1, 負傷 1
5. 宮古千徳閑伊川	○		1		1956. 2. 16	筆者点検	密猟半矢~死
6. 宮古花輪閑伊川			3		1960. 2. 20	新聞	うち死 1
7. 宮古八幡閑伊川	○		8		1951. 2. 2	筆者観察	
8. 宮古閑伊川々口		○	1		1952. 2. 7	筆者点検	密猟半矢~死
9. 宮古小山田閑伊川	○		1		1960. 2. 中~3. 上	筆者観察撮影	
10. 宮古小山田閑伊川	○		1		1960. 3. 下~4. 上	筆者観察	上記と別個体
11. 宮古湾高浜	○		1	5	1960. 2. 29	新聞	
12. 津軽石川々口		○	36		1950. 2. 19	筆者観察	
13. 津軽石川々口			8		1956. 2. 15	盛合克己氏	
14. 津軽石		?	1		1960. 2. 1 頃	人の話	密猟, 宮古在 住者
15. 津軽石川々口	○		7		1960. 2. 13	筆者観察撮影	
16. 津軽石	○		1		1960. 2. 29	新聞	衰弱~死
17. 山田湾織笠川々口	○		5		1944. 1. 24	筆者観察	
18. 山田湾			2		1960. 2. 13	人の話	
19. 山田湾浦ノ浜	○		5		1944. 1. 20	筆者観察	
20. 山田湾浦ノ浜	○		15		1944. 2. 25	筆者観察	
21. 船越沼	○		6	1	1943. 3. 20	筆者観察	
22. 船越沼	○		4		1944. 2. 18	筆者観察	
23. 船越沼	○		2	2	1944. 2. 25	筆者観察	
24. 上閉伊郡唐丹湾(?)					1960	人の話	密猟
25. 広田湾小友海岸						石川一夫氏	
26. 花巻宮野目三助沼			3		1960. 3. 1	新聞	
27. 岩手郡松尾村松川			1		1920 頃	人の話	密猟

附表説明

2. 衰弱して群から離れた1羽を助けた記事。写真を見るとハクチョウに当る。

4. 2月10日以来、岩泉町内の小本川やや上流添いの二升石に2羽、一つ苗代に4

羽、国見に3羽、山下に3羽等が見られ（恐らく同一群）、そのうち2羽は結局行方不明、16日に同地域小川で死体が1羽発見され、食餌不足の結果と称さる。同日二升石で負傷鳥1羽が発見され、二升石のお寺の住職に救われ宮古の有志が宮古病院に入院させた。翼両側に傷あり。3月20日全快、入幡閉伊川へ放鳥。直ちに野生の同種成鳥1羽と行動を共にしたが、14日死体となって発見された。足輪によって同個体と確認。解剖の結果、眼の後方から1号散弾1個を摘出し、警察へ提出した。入院中治療に当たった豊島医師によれば、当時眼底出血は無かった由である。

6. 死んだ1羽は虎挟みで足を切られていたという。

14. 話によりハクチョウであることを殆んど確実。

15. 土地の人の話によれば、2月初旬に2羽が現われ、人を恐れず数日前から5羽が加わった。それ以来人を近づけないが、人家からあまり離れる事もない由。いつまで居たか不明。

16. 衰弱した1羽を宮古病院へ運ぶ途中で死んだ由。

21. 成鳥だけが1群をなして水面に居り、幼鳥1羽だけ離れて葦生の中でセグロカモメの死体を食っていた。

24. 密猟された白鳥を駐在巡査も食した由。

25. 石川氏によれば年々数十羽の渡来があったが、終戦後、米軍兵士の密猟激しく、殆んど渡来しなくなった。

26. 三助沼は10年前設置された用水池で周囲2km.の由。鳥は小形純白とあるが写真真は種別判定不能。去年も同種のものが来た、とある。

27. 首を持って下げると人の背丈程あったとの事。

考 察 宮古・津軽石の記録が1950以来になっているのは、それまで筆者は船越に住んでいたので記録がとれなかったからであり、山田・船越の記録が1943以来になっているのも、それまで筆者は横浜に居たからである。しかし山田・船越では'43・'44だけに記録があるのは、それ以来しばらく渡来が絶えた結果で、少くとも'49までは渡来が無かった。

しかし渡来が無かったわけではないらしく、津軽石には殆んど例年渡来があり乍ら、直ちに密猟されてしまった形勢が濃厚である。津軽石という所はハクチョウ類の越冬地として好適な自然条件を具備しているから、年によってはもっと多数渡来しそうなものだが、ハクチョウ36羽の例以外には10羽を超えていないのは、渡りの主要コースを外れているから、と考えるほか無いようである。

鳥類の渡りには古い地史の影響が濃い、というのが筆者の持論で、ハクチョウ類の渡来にもそれはよく当てはまるようであるが、此处では略す。

実際の渡来地域や渡来数は表よりよほど多いに違いないが、年により渡来数に大差があるらしい。

密猟され運び去られたものは容易に筆者の耳に入らないのが、負傷鳥の例からすれば密猟数相当多いものと推察される。

宮古附近は冬期も凍結せず、動植物質とも極めて豊富な地域であるから、ハクチョウ類の餓死は筆者には考えられない。

宮古閉伊川下流には数百羽余のカモメ類や、スズガモ・キンクロハジロ等が越冬し、多数の陸鴨類が夜間採食の跡を残している。しかし陸鴨類の自然死々体には 10 数年来筆者は一度も出合った事が無い。

水辺には陸鴨類を密猟するための釣針仕掛け、虎挟みなどが昼間まで残っているのを時折見かける程であり、水鳥に対する青少年の投石はまた目に余るものがある。

ハクチョウ類の衰弱や落鳥は総て人為によるものと考えて（少くとも宮古附近の場合には）殆んど差支えないらしく、自然の衰弱死に見える場合にも、その殆んど総てが何等かの被害によって食慾を失ったものとみるべきではなからうか。なお 1 群全員の衰弱例は無い。

就いては近年弓道の復活に伴ない、ワシ・タカ類の密猟激しく、宮古市内にも蔭で買漁る者が数人あるらしい状況で、宮古附近ではワシ・タカ類は事実上全滅に近く、沿岸で 22 箇所発見してあったミサゴの巣の中、大部分は宮古を中心とする山田——田老間に集中しているのであるが、本年は其の範囲内では唯 1 個所に繁殖があったのみでありノスリでさえ 1 羽を見かけたのみで、人を見ると同時に非常な遠距離から直ちに飛去したのであった。ハイタカさえ高価に売れるのだという。ハクチョウ類の羽も売れるのではないか。法律違反を嚴重に取締る半面、代用矢羽根、例えばプラスチック製のそれなどの研究も進める必要があるのではないか。

Twenty seven records, since 1943, of the occurrence of Whooper (mostly) and Bewick's Swans in Iwate Prefecture, known to the author, are listed. The records for 1960 are decidedly numerous. There seems to have been no natural death, but poaching, not only of swans, in this coastal district is to be considered seriously.

福島県内オオハクチョウの渡来 The Whooper Swan in Fukushima. 大湊文太郎 Buntaro Onami

福島県のほぼ中央に位置する猪苗代湖に、昭和 34 年 10 月下旬頃から渡来した大白鳥は翌 35 年 1 月には総数 58 羽（耶麻郡猪苗代町、佐藤謙氏報告）を数えるに至り、内陸地渡来数（外に太平洋岸相馬郡松川浦渡来地は実数不明）の新記録をつくり別記の通り調査したのであるが、県内に大白鳥が飛来したのは数十年前からと推察（44 年前猪苗代湖にて銃獲の事実あり。佐藤報告）される。